

Prognosis and Risk Factor Analysis of Open Flap Debridement for Older People. 優秀論文賞, 第 160 回日本歯科保存学会 2023 年度春季学術大会, 2024 年 5 月 16 日.

- 3) 本杉駿弥: Porphyromonas gingivalis が AOM/DSS 大腸がんモデルマウスに及ぼす影響とそのメカニズムの解析. 保存学会優秀ポスター賞, 日本歯科保存学会 2024 年度春季学術大会 (第 160 回), 仙台, 2024 年 5 月 17 日.
- 4) 都野隆博: シングルセル遺伝子発現解析によるヒト培養骨膜細胞シートの骨形成評価. 歯周組織再生医学優秀発表賞, 第 66 回秋季日本歯周病学会, 2024 年 5 月 24 日.
- 5) 中島麻由佳: Engineering of bioactive nanocomplexes on dental floss for targeted gingival therapy. 新潟大学優秀論文表彰, 2024 年 7 月 1 日.
- 6) Tran Diep: The Beneficial Effects of Recombinant Collagen Peptide In Periosteal Cell-Derived Osteoregeneration. APSP poster award, The 15th Asian Pacific Society of Periodontology Meeting, Hanoi, Vietnam, October 17-19, 2024.

【その他】

- 1) Tabeta K: Developing novel modalities for periodontal disease. TIKG 13th Meeting, Makassar, Indonesia, February 25, 2025.
- 2) 多部田康一: 歯周医学: 研究, 臨床におけるエビデンスの理解. 広島大学講義, 広島, 2024 年 1 月 19 日.
- 3) 中島麻由佳: Drug Delivery Systems を応用した新規歯周病治療法の開発—Metal-Phenolic Network による Nanofloss 開発研究—. UJA 論文賞受賞講演, web 開催, 2024 年 5 月 12 日.
- 4) 高橋直紀: 口腔—腸管連関における歯周病原細菌 P. gingivalis の関与とその応用発展. 令和 6 年度歯学研究セミナー, 札幌, 2024 年 7 月 3 日.
- 5) 那須優介, 多部田康一, 照沼美穂: 歯周病原細菌性菌血症による精神疾患発症機構の解析. 第 64 回新潟生化学懇話会, 新潟, 2024 年 7 月 13 日, プログラムおよび講演抄録集: 43 頁, 2024.
- 6) 高橋直紀: 歯周病アップデート 2024—明日の臨床で使える知識と技術—. 六華会富山支部夏季研修セミナー, 富山, 2024 年 9 月 8 日.
- 7) 高橋直紀: ペリオのキホン—明日からの臨床で役立つ知識と技術—. 新潟大学医歯学総合病院 歯科衛生部門研修会, 新潟, 2024 年 10 月 25 日.
- 8) 高橋直紀: シンポジウム 歯周医学アップデート—嚥下された歯周病原細菌と下部消化器疾患—. 歯学研究を明るく楽しむ交流会・歯科領域での AI 活

用の検討会, 静岡県伊豆市天城ホームステッド, 2024 年 11 月 30 日-12 月 1 日.

- 9) Takahashi N: Oral-Gut Connection: Impact of Periodontal Pathogens on Gastrointestinal Diseases. International Class Guest Online Lecture, Indonesia, Hasanuddin University Faculty of Dentistry, November 21, 2024.
- 10) 湊裕佳子: ジペプチジルペプチダーゼ阻害薬による歯周病抑制効果の検討. 歯学研究を明るく楽しむ交流会・歯科領域での AI 活用の検討会, 伊豆, 2024 年 12 月 1 日.
- 11) 柳川万由子: 歯周治療への応用を目指した脂肪酸ペーヌイオン液体の開発研究. 歯学研究を明るく楽しむ交流会・歯科領域での AI 活用の検討会, 静岡, 2024 年 12 月 1 日.
- 12) 両角俊哉, 新井恭子, 鎗田将史, 佐藤友則, 保苅崇大, 北島佳代子: 歯周治療により誘発される菌血症と全身への影響. 歯学 111 春季特集号: 76-79, 2024.

歯科矯正学分野

【論文】

- 1) 大森裕子: 新潟大学における外科的矯正治療の臨床と研究. 甲北信越矯正歯科学会雑誌 32(1): 8-12, 2024.
- 2) Nagasaki T, Kurihara-Okawa K, Okawa J, Nihara J, Takahashi K, Hori K, Fukui T, Ono T, Saito I: Tongue pressure and maxillofacial muscle activities during swallowing in patients with mandibular prognathism. J Oral Rehabil. 51(8):1413-1421. 2024.
- 3) Mimura S, Kurihara-Okawa K, Fukamachi N, Nagasaki T, Hori K, Okawa J, Takeyama M, Ono T, Saito I: Characteristics of masticatory behavior of patients with mandibular prognathism. Maxillofac Plast Reconstr Surg. 47(5), 2025.
- 4) Kitamura M, Kudo T, Ichikawa K, Fujita A, Osawa K, Sari FT, Utama V, Kesuma A, Saito I, Nihara J: The role of primary cilia in nasal septum development. Niigata Dent. J. 54(2): 9-14, 2024.
- 5) Ryo T, Junya K, Yuko O, Kojiro T, Isao S, Mika K and Tetsu M: Fabrication of Apparatus Specialized for Measuring the Elasticity of Perioral Tissues. Materials 17(15), 3654, 2024.
- 6) Kawasaki M, Kawasaki K, Sari FT, Kudo T, Nihara J, Kitamura M, Nagai T, Utama V, Ishida Y, Meguro F, Kesuma A, Fujita A, Nishimura T, Kogure Y, Maruyama S, Tanuma J, Kakihara Y, Maeda T, Ghafoor S, Khonsari

RG, Corre P, Sharpe PT, Cobourne MT, Franco B, Ohazama A : Cell-cell interaction determine cell fate of mesoderm-derived cell in tongue development through Hh signaling. eLife 11:13:e85042, 2024.

- 7) Zheng Z, Saito D, Hasebe D, Funayama A, Nihara J, Kobayashi T. Three-dimensional evaluation of maxillofacial symmetry improvement following orthognathic surgery in patients with asymmetrical jaw deformities. Oral Maxillofac Surg. 7:29(1):8, 2024.
- 8) Zheng Z, Hasebe D, Suda D, Saito N, Saito D, Nihara J, Nohno K, Saito I, Kobayashi T. Investigation of orthognathic surgery indicators-combination with index of orthognathic functional treatment needs (IOFTN) and maxillofacial morphometric analysis. Oral Maxillofac Surg. 28(3):1189-1196, 2024.

【商業誌】

- 1) 丹原 惇：口唇裂・口蓋裂患者に対する最新治療—3 術前顎矯正. 矯正臨床ジャーナル 2024.
- 2) 大川加奈子：顎顔面形態と咀嚼および嚥下機能との連関. 臨床家のための矯正 YEAR BOOK 2024 (北峯康充 編), 146-149 頁, クインテッセンス出版, 東京, 2024.

【研究費獲得】

- 1) 丹原 惇：組織幹細胞の恒常性メカニズムの解明. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) , 24K13064, 2024
- 2) 大川加奈子：舌圧と口蓋形態を指標とした骨格性開咬症の新たな機能的形態的特徴の解明. 学術研究助成基金助成金 若手研究, 24K20075, 2024
- 3) 工藤武久：分子シャペロンの顎顔面形成における役割の解明. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 24K20025, 2024.
- 4) 新井萌生：加齢を伴う SPARC-KO マウスの歯根膜組織の解析. 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究, 24K20054, 2024.
- 5) (延長分) 上村藍太郎：内因性カンナビノイド機構によるグリア機能の調節が関わる痛みの脳内制御機構の解明. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 23K1611, 2023.
- 6) (延長分) 栗原加奈子：舌圧と口唇・頬圧の同時測定による骨格性開咬症の新たな機能的解析法の確立. 学術研究助成基金助成金 若手研究, 20K18662, 2020.

【招待講演・シンポジウム】

- 1) 上村藍太郎：スケレタルアンカレッジの使用状況を踏まえた有用性と課題. 第 39 回甲北信越矯正歯科学会学術大会, 2024 年 6 月 23 日, 抄録集 : 26 頁, 2024.
- 2) 丹原 惇：口唇裂・口蓋裂治療を俯瞰する矯正歯科医の役割. 口唇裂・口蓋裂認定師申請単位認定セミナー. 第 48 回日本口蓋裂学会総会・学術総会, 名古屋, 2024 年 5 月 31 日, 日口蓋誌 49(2) : 107 頁, 2024.
- 3) 大川加奈子：顎変形症の治療にともなう機能変化およびリハビリテーション. 特定非営利活動法人日本顎変形症学会主催の第 20 回教育研修会 (オンデマンド; e-learning 開催), 東京, 2024 年 5 月 17 日～6 月 28 日, 2024.

【学会発表】

- 1) 市川佳弥, 丹原 惇, 寺田愛希, 井村真美, 宮田昌幸, 若槻華子, 大湊 麗, 児玉泰光, 小林亮太, 新美奏恵, 齋藤大輔, 小林正治, 齋藤 功：片側性唇顎口蓋裂患者における上顎歯列弓形態への PNAM 治療の影響 5 歳時を対象として. 第 48 回日本口蓋裂学会総会・学術総会, 名古屋, 2024 年 5 月 30 日～31 日, 日口蓋誌 49(2) : 138 頁, 2024.
- 2) 大澤知朗, 高橋功次郎, 大森裕子, 丹原 惇：叢生を伴う Angle Class III subdivision 上顎前突症例. 第 39 回甲北信越矯正歯科学会学術大会, 新潟, 2024 年 6 月 23 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集 : 45 頁, 2024.
- 3) 大澤知朗, 丹原 惇, 西山秀昌, 高橋功次郎, 大森裕子, 新ちひろ, 齋藤大輔, 富原 圭, 小林正治, 齋藤 功：骨格性下顎前突症患者における下顎骨の偏位様相と上顎咬合平面傾斜との関係について. 第 34 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2024 年 6 月 27 日～28 日, 日顎変形誌 34(2): 148 頁, 2024.
- 4) マウン・マウン・ミョー, 齋藤大輔, 竹内涼子, 羽賀健太, 長谷部大地, 船山昭典, 丹原 惇, 新美奏恵, 小林正治：Three-dimensional evaluation of cranio-maxillofacial morphological asymmetry in patients with jaw deformities. 第 34 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 東京, 2024 年 6 月 27 日～28 日, 日顎変形誌 34(2): 123 頁, 2024.
- 5) 長崎 司, 丹原 惇：上顎左側犬歯の埋伏、過蓋咬合、両側第二大臼歯の鉤状咬合および叢生を伴う Angle Class II 上顎前突症例. 第 39 回甲北信越矯正歯科学会学術大会, 新潟, 2024 年 6 月 23 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集 : 46 頁, 2024.

- 6) 吉田智美, 竹山雅規, 網谷季莉子, 工藤武久, 長谷部大地, 小林正治, 齋藤 功: 閉塞性睡眠時無呼吸 (OSA)患者に対する口腔内装置(OA)の長期使用に伴う形態学的変化とその予測について. 第39回甲北信越矯正歯科学会学術大会, 新潟, 2024年6月23日, 同学会学術大会プログラム・抄録集:41頁, 2024.
- 7) 北村 円, 工藤武久, 市川佳弥, 新井萌生, 藤田 瑛, 大澤知朗, サリ フィンサ, ヴァネッサ ウタマ, アレックス ケスマ, 齋藤 功, 丹原 惇: 鼻中隔形成における一次繊毛の役割. 令和6年度新潟歯学会第1回例会, 新潟, 2024年7月13日, 新潟歯学会雑誌??(?): ??頁, 2024.
- 8) 竹元 涼, 高橋功次朗, 大森裕子, 小林潤矢, 丹原 惇, 川合巳佳, 三俣 哲, 齋藤 功: 口唇周囲軟組織の新たな硬さ計測方法の開発. 令和6年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2024年11月2日, 新潟歯学会雑誌 54(2): ?頁, 2024.
- 9) 小林潤矢, 竹元 涼, 大森裕子, 高橋功次朗, 齋藤 功, 川合巳佳, 三俣 哲: 歯科矯正治療に用いる口唇周囲組織の弾性率測定装置の開発. 第73回高分子学会年次大会, 仙台, 2024年6月5~7日, 2024.
- 10) 金森廉太郎, 高橋功次朗, 大森裕子, 川合巳佳, 三俣 哲: アルギン酸ゲルビーズから放出されたイオンの電気物性に及ぼす超音波照射の影響. 第73回高分子討論会, 新潟, 2024年9月25日~27日.
- 11) 小林潤矢, 竹元 涼, 高橋功次朗, 大森裕子, 川合巳佳, 三俣 哲: ポリウレタンエラストマーで模倣した口唇周囲皮膚組織の弾性率測定. 第73回高分子討論会, 新潟, 2024年9月25日~27日.

【受賞】

- 1) 大澤知朗, 丹原 惇, 西山秀昌, 高橋功次朗, 大森裕子, 新ちひろ, 齋藤大輔, 富原 圭, 小林正治, 齋藤 功: 骨格性下顎前突症患者における下顎骨の偏位様相と上顎咬合平面傾斜との関係について. 第34回日本顎変形症学会総会・学術大会 優秀ポスター賞, 2024年6月27日~28日.

【その他】

- 1) 岩間 基: マウス臼歯の根尖側セメント質の最表層には無細胞外部線維性セメント質が常に存在する. 新潟歯学会雑誌 54(1): 49頁, 2024.

- 2) 山田 貴大: 下顎偏位を伴う骨格性下顎前突症患者の顎矯正手術後における顎関節形態の変化. 新潟歯学会雑誌 54(2): 27頁, 2024.
- 3) 寺田 愛希: 新潟大学医歯学総合病院においてPNAM治療を行った片側性口唇口蓋裂児における外鼻形態変化の長期的評価と治療効果に影響を与える因子について. 新潟歯学会雑誌 54(2): 29頁, 2024.

摂食嚥下リハビリテーション学分野

【著書】

- 1) 伊藤加代子, 井上 誠: 第3章更年期・老年期3ドライマウス. 外来でみる女性診療 現場の教科書 (寺内公一編), 株式会社診断と治療社, 印刷中.
- 2) 井上 誠: 咀嚼と嚥下の関係. 最新言語聴覚講座 摂食嚥下障害, 16-19頁, 医歯薬出版株式会社, 2025.
- 3) 伊藤加代子, 井上 誠: 第2章6老化による口腔機能の変化①唾液腺と唾液分泌, ②口腔感覚. 歯科衛生士講座 高齢者歯科学 4版 (羽村 章編), 49-52頁, 永末書店, 2025.
- 4) 辻村恭憲: 加齢と摂食嚥下機能. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会eラーニング対応 第1分野 摂食嚥下リハビリテーションの全体像 Ver.4, 110-116頁, 医歯薬出版株式会社, 2025.
- 5) 井上 誠: 咀嚼は嚥下を難しくするか. CLINICALREHABILITATION 臨時増刊誤嚥性肺炎とリハビリテーション, 646-649頁, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2024.

【論文】

- 1) Satomi Kawada, Titi Chotirungsan, Charng-Rong Pan, Yuhei Tsutsui, Keiichiro Okamoto, Jin Magara, Takanori Tsujimura, Makoto Inoue: Effects of potassium on laryngeal induced swallowing rate in rats. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol Online ahead of print , doi:10.1152/ajpgi.00012. 2025.
- 2) Yuhei Tsutsui, Titi Chotirungsan, Charng-Rong Pan, Satomi Kawada, Nozomi Dewa, Jin Magara, Takanori Tsujimura, Makoto Inoue: The central neural control of the posterior belly of the digastric muscles during swallowing in rats. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 328(3):G277-G288, doi: 10.1152/ajpgi.00374.2024. 2025.
- 3) Koji Takahashi, Yutaka Watanabe, Takuma Okumura, Yasushi Tamada, Misuzu Sato, Masanori Iwasaki, Maki